



奥薩摩水と緑の郷づくり構想における、水辺の楽校ゾーン周辺（神子橋下流付近）



観光振興
高嶺虎男議員

**奥薩摩構想の取り組みは
広域的な視野で**

川内川と鶴田ダム資源を
生かし、奥薩摩水と緑の郷
づくり構想と川内川アクア
地域ビジョン協議会の設立
等、国・県の段階で活性化
の方向付けがあります。現
状の観光施設と合せ、取り
組みの考え方を伺いたい。

町長 第4次振興計画で奥薩摩
水と緑の郷づくり構想を觀
光推進策として掲げ、ダ
ム周辺ゾーン、神子地区水
辺の楽校ゾーン、紫尾温泉
歴史ゾーンの三つのゾーンと
なっています。

国県の財政事情も厳しい
中で大きな支援は期待でき
ない面もあり、鶴田町だけ
で観光振興を図るより奥薩
摩構想、川内川アクアコン
ト構想の一環として、広域
的に取り組み既存の観光施
設をフル活用して厳しい財政
状況の中、今後の具体的な
施策を本町に結び付けてい
きたい。

あびる館
高嶺議員

集客対策は

郷土料理メニューに努力



あびる館レストラン「あじさい」の利用客

宿泊施設について、計画
当初から建設しない方針で
取り組んでおり、この件に
関しては共存共栄を目指す
というスタンスで、立って今後
も取り組んでいきたい。

あびる館は開業3年目に
入った。利用目的別来客者の
実態と、客から地域の特
徴ある郷土料理提供の声が
あるがどのように考えている
か。

また、外賓客や帰省客から
グリーンツーリズム時代への
対応と交流人口の拡大と合
せ、運営収支の向上面から
も検討すべきと思うが考え
を伺う。

町長

今年3月10日現在、温泉
利用が22万9000人、

ブール利用が3万9000人、

人、宴会が2万6000人
です。

あびる館は健康福祉の
中核施設と位置づけてお
り、その趣旨に沿って、予
約制で薬膳料理を準備して
参りましたが、メニューとい
う点では十分ではないと認
識しています。今後特色あ
る郷土料理メニューの開発に
努力して参ります。

一般質問

今回の一般質問は3月13日に
行われ6人の議員が登壇しまし
た。質問と答弁の要旨をお知ら
せします。

町村合併	四位芳彦議員	具体的な取り組みは 祁答院4町か5町が現実的
------	--------	---------------------------

市町村合併は、財政上の
優遇措置を中心とする合
併特例法の時
限があり、各
地で合併論議
が活発化して
いる。本町も中
薩地域合併研
究会に取り組
み、地域の将
来像の調査研
究が進められ
てきたところで
す。

一般その研
究会の報告が
あり、各町單
独市町村の單
位で合併論議
が活発化して
いる。本町も中
薩地域合併研
究会に取り組
み、地域の将
来像の調査研
究が進められ
てきたところで
す。



市町村合併に関する集落説明会（大角集落）

年度収支の試算結果と、1
市7町、7町、4町の各合
併パターンごとの単年度試
算結果が示されたが、この
報告書は單なる研究報告と
してとらえられている。

この報告を受け、今後
本町の具体的な取り組みに
ついて、総務常任委員会の
総意として伺いたい。

この報告を受け、今後
本町の具体的な取り組みに
ついて、総務常任委員会の
総意として伺いたい。



井上章三町長

合併特例法の期限が平成
17年3月までと限られてい
る中で、中薩地域合併協議
会の報告を4月5月の2ヶ
月間で全集落の説明会を実
施し、住民の意向を判断し
ながら法定協議会の設置に
向け組み合わせを模索する
ことになると考えています。

現下の厳しい状況を直面
に分析すれば行政の最高責
任者として合併の必要性を
痛感しています。

将来の我が町のあるべき姿
を描き集落説明会と同時
に、合併関係町の首長同士
の信頼関係を構築し、法定
協議会の設立に向けて関係町
との連携協力のもとリード
ーションを發揮していく。

組み合わせについては、祁
答院4ヶ町ないしは入來
町を含めた5ヶ町が現実的
な選択ではないかと考えて
います。

ここを、ただしてみました